



市内イベントを随時更新中▶十和田市ブログ「駒の里から」
http://citytowada.exblog.jp/

▶十和田市写真館 http://www.city.towada.lg.jp/youkoso/photo/top.htm

福島県の子どもたちが十和田の夏を満喫 十和田・奥入瀬サマーキッズキャンパス

十和田・奥入瀬サマーキッズキャンパスが8月11日から20日にかけて行われ、福島県から約70人の親子が参加しました。これは、屋外での活動が制限されている福島県の子どもたちにのびのびと遊び、学べる環境の場を提供しようと同実行委員会（小山田久会長）が昨年に引き続き行ったものです。期間中はキャンプや乗馬体験、奥入瀬渓流のガイドトレッキングなどが行われ、参加者は十和田の夏を満喫していました。



モスボール教室ではこけを丸めて、こけの妖精こっきーを制作。いろいろな飾りを付けてかわいい作品が完成

自殺や交通事故・労働中の死亡事故を防ごう 8月は「いのちを守る運動月間」

市は今年からセーフコミュニティの認証を取得した8月を「十和田市いのちを守る運動月間」と定め、8月1日、駒っこ広場で総決起大会を開催しました。大会には交通安全協会の会員など、約130人が参加。終了後、参加者は旧国道4号青森銀行十和田支店前やイオンスーパーセンター十和田店で、車の運転手や来場者に自殺や死亡事故予防のチラシを配布し、いのちを守ることの大切さを呼び掛けました。



車の運転手や歩行者にチラシを配布し、呼び掛けました

動物や植物を知り生命の大切さを学ぶ 北里大学夏休み短期体験学習

8月6・7日、北里大学で平成24年度北里大学夏休み短期体験学習が行われ、市内の小学4年生から中学2年生と保護者ら25人が参加しました。これは、東公民館が毎年開催しているもので今回で16回目となります。参加者は、大学教授らの指導のもと、牛の第一胃に生息する微生物と血液中の血球を顕微鏡を使っての観察や、一本木沢ビオトープで自然観察を行うなど動物や植物について楽しく学んでいました。



一生懸命レンズを覗き込み、初めて見る微生物をスケッチしていました

上十三・十和田湖広域定住自立圏 新たに秋田県小坂町とおいらせ町が参加

7月27日、市役所で第1回定住自立圏構想市町村長会議が行われ、新たに秋田県小坂町とおいらせ町が参加を表明しました。2町の参加を受け、共同中心市である十和田・三沢、関係町村である野辺地、七戸、六戸、横浜、東北、六ヶ所、おいらせ、小坂の2市7町1村による「上十三・十和田湖広域定住自立圏」を形成する方向性を確認しました。定住自立圏形成協定の調印式は秋頃に予定しています。



新たに参加を表明した（写真左から）秋田県小坂町の細越満町長、おいらせ町の成田隆町長

中心商店街を調査し、まちの魅力を発見 寺子屋稲生塾・とわだ時空調査隊

8月4・5日、中心商店街のお店を調査し、壁新聞と映像にまとめて展示、配信する「とわだ時空調査隊」が寺子屋稲生塾の4回目の講座として行われました。ぬまおかカメラなどを調査した菅原ひかりさん（北園小・5年）とまどかさん（4年）の姉妹は「カメラを触ったり写真の加工などを見たりすることができた。参加してよかったです」と話していました。塾生が作成した壁新聞は、当分の間新渡戸記念館で展示されています。



しぶたみ菓子店では落雁の型を発見。お店のかたの説明を聞きながら、珍しそうに眺める塾生ら

本場のサンバを堪能 十和田サンバカーニバル

8月4日、十和田サンバカーニバルが産馬通りで開催されました。これは、十和田サンバカーニバル実行委員会（山端政博委員長）が、産馬通りをにぎやかにしたいと行ったもので、2年ぶり2回目の開催となります。カーニバルには本場ブラジルのダンサーチーム「サッシペレレ」のほか、市内保育園児を中心とした「オスサンボンギス」など5チームが参加し、軽快なリズムに合わせて元気よくサンバなどを披露しました。



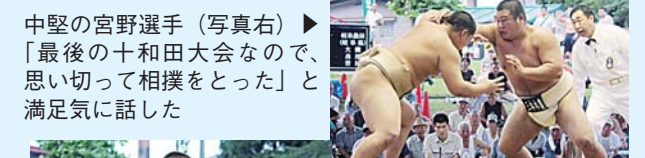
きらびやかな衣装で軽快に踊るダンサーらに、沿道を埋め尽くした多くの観客が声援を送っていました

Pick up 胸に輝く金メダル 三農が16年ぶり6回目の優勝

8月15日、市相撲場で「第61回選抜高校相撲十和田大会」が開催され、県立三本木農業高校（荒谷隆男校長）が16年ぶり6回目の優勝を果たしました。団体予選を順当に勝ち上がった三農は、決勝トーナメントで小牛田農林高校（宮城県）、岐阜農林高校（岐阜県）を下し、準決勝戦で強豪・金沢市立工業高校（石川県）と対戦。先鋒戦で三農・打越選手（1年生）が勝利すると、勢いは三農に。中堅戦は敗れたものの大将戦で勝利し、決勝に進みました。決勝戦の相手は海洋高校（新潟県）。先鋒戦は敗れたものの、中堅戦で宮野選手（3年生）が力強い突き出しで勝利。1対1で迎えた大将戦。会場から大声援を受ける斉藤選手（2年生）の鋭いはたき込みが決まり、2対1で三農の勝利。会場全体に歓喜の音が響き渡りました。斉藤選手は「多くのかたが見に来ている中、地元で優勝する姿を見ることができてよかった。これからもチャレンジャーの精神を忘れないで精進していきたい」と、満面の笑みを浮かべていました。地元開催というプレッシャーをはねのけて栄冠を手にした三農相撲部。十和田の土俵で優勝旗を掲げる姿に観客からは惜しめない拍手が送られていました。



◀先鋒の打越選手（写真左）「来年も十和田で優勝したい」と力強く話した



中堅の宮野選手（写真右）▶「最後の十和田大会なので、思い切って相撲をとった」と満足気に話した



◀大将の斉藤選手（写真左）負傷した右足の痛みをこらえながら獅子奮迅の活躍



優勝を飾った三農のメンバー。おめでとうございます！